

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

3面

岡山型低コストハウスを設置

(岡山県本部)

Web版

JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

6-7面

無印良品で「ほめられかぼちゃ」を 使用した菓子発売

(営業開発部)



配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://forms.cloud.microsoft/r/uvWgU72VtZ>

全農 ZEN-NOH

食と農を未来へつなぐ。

麦類農産部

全国豆類共励会で全農会長賞を授与

三重県の伊藤耕業、排水対策などを評価



伊藤久寿代表(右)に金森常務(左)から表彰状を授与

伊藤耕業(伊藤久寿代表)は、三重県菰野町で35畝の大豆作を営んでおり、明きよの深掘りで圃場排水機能を維持し、忠実な適期作業など基本技術を徹底することで、県3年平均を大きく上回る高

同共励会は、豆類の生産拡大と経営改善を目的に、先進的で模範となる経営体や生産集団を表彰します。今回は全国から「大豆家族経営の部」では77点、「大豆集団の部」では61点、「小豆・いんげん・落花生等の部」に70点の合計208点の応募がありました。

全農は6月26日、東京で開催された第54回全国豆類経営改善共励会表彰式(JA全中、(株)日本農業新聞主催)で、スマート農業技術の導入や圃場排水対策の徹底で高単収を実現した伊藤耕業に金森正幸常務理事から表彰状を授与しました。



受賞した皆さん

単収を実現しました。また、スマート農業技術による省力化や外国人材の雇用、地元JAとの食育活動なども評価されました。

全農はJAや関係機関と連携し、大豆生産者の安定生産・品質向上を支援するとともに、生産拡大と安定供給の実現に向け、引き続き産地振興に取り組めます。

広報・調査部

田んぼの生きもの調査を開催

参加者44人が26種の生きもの発見



「勉強になりました!」と話す参加者

本イベントは、子どもたちが「農」「食」の大切さや水田が持つ多面的な機能について学ぶことを目的に開催しました。

参加者は講師の合図に合わせて生きもの探しに挑戦。メダカやチビゲンゴロウなど26種の生きものを見つけました。また、お米を食べることが、生きものを育む田んぼを守ることにつながることを学びました。イベントの最後には、生

全農は7月4日、神奈川県伊勢原市で「JA全農プレゼンツ2026田んぼの生きもの調査」を開催し、16組44人の親子が参加しました。

産者の内藤正行さんから「お米づくりに対する思い」や「田んぼと生きものつながり」についてお話しいただきました。初めて参加した親子からは、「田んぼでこんなにたくさん生きものが生きていることに感動した。講師や生産者のお話を聞いて、私たちがお米を食べることが大事だと学ぶことができた」との感想が寄せられました。



イベントに参加した16組44人の家族

岡山県本部

岡山型低コストハウスを設置

高温対策や品種、BS資材の実証試験も実施

岡山県本部は6月12日、岡山市南区藤田にある事務所敷地内で、岡山型低コストハウスの現地説明会を実施しました。ハウスはモデルハウスとして設置する一方で、夏場の高温対策技術の実証や品種試験など、生産振興に向けた実証試験ハウスとしても活用していきます。

説明会には管内JAや県本部職員が参加し、岡山県本部から岡山型低コストハウスの概要を説明した後、見学を行いました。

ハウスは近年の資材高騰への対応として、超高張力パイプを使用して低コスト化し、耐候性も強化した仕様となっています。実証試験の内容も説明し、近年の高温少雨に対するBS資材や品種試験を予定していることを報告しました。

7月15日には、実際に実証試験として施設ナス2品種を播種し、高温時における育苗



ナスの播種をする全農とJA職員

対策についても試験を行いました。平均反収が漸減している施設ナスについて、品種の違いによる収量、品質の差を明らかにし、施設ナスの品種選定時の検討材料とすることを目的としています。BS資材である有機活性乳酸の試験も実施。施用区と無施用区に分けて定植を行い、今後の収量、品質に与える影響を確認します。

岡山県本部は、近年の異常気象に対応した最適な品種や資材を生産者に提案できるように、当ハウスを活用した試験に継続して取り組みます。



BS資材の説明を聞く参加者

広報・調査部

「小谷あゆみが紡ぐ 全農ストーリー」の最新作

山形のさくらんぼ農家を支える『91農業』を動画で紹介

全農は、農ジャーナリスト・小谷あゆみさんが全国の農業現場取材する動画シリーズ「小谷あゆみが紡ぐ全農ストーリー」の最新作として、「山形のさくらんぼ農家を支える『91農業』とは？」を公開しました。

今回の舞台は、日本有数のさくらんぼ産地である山形県寒河江市。収穫最盛期がわずか2週間ほどという中で、人手不足解消の鍵として注目される「91農業」を紹介しています。

91農業は「9割はいつもの暮らし、1割だけ農業に参加する」をコンセプトに、生産者と農業に関わりたい人をつなぐ新しい農業参加の仕組みです。

動画では、小谷あゆみさんが収穫や選別作業を体験しながら、生産者や参加者への取



「軽部さくらんぼ園」の軽部賢太さん取材する小谷さん

材を実施。91農業の活用により、作業効率向上や栽培面積拡大につながった事例を紹介するとともに、生産者と消費者をつなぐ交流の場としての役割にも迫ります。山形のさくらんぼ産地を支える新たな挑戦を、ぜひご覧ください。



動画はこちらから



牛乳月間にAコープで需要喚起

クロスMDで魅力や新たな消費提案

工夫を凝らした
店舗の売り場

企業と連携し商品をPR

今回の取り組みは、3月に実施した農協牛乳と国産鶏むね肉を組み合わせた企画に続く第2弾です。

牛乳・乳製品の需要は季節による変動に加え、近年は消費量の減少傾向が続いており、生乳の需給調整が課題となっています。こうした状況を踏まえ、今回の企画では牛乳の消費拡大と、家庭でのデザートづくりを通じた牛乳利用機会の創出を図りました。

営業開発部がハウス食品、協同乳業、全国農協食品、JA全農Aコープと連携し、ニッポンエールブランドの認知度向

営業開発部は6月の牛乳月間に合わせ、ニッポンエール・フルーチェと農協牛乳を組み合わせたクロスMD企画をJA全農Aコープ約60店舗で展開し、ニッポンエールブランドの認知度向上と牛乳の消費拡大に取り組みしました。

【営業開発部】

上と牛乳の消費拡大を目的に実施しました。関連商品を組み合わせるクロスMDにより、商品の魅力や利用シーンを分かりやすく伝える売り場づくりを進めました。

首都圏エリアで6月11～15日、北関東エリアで6月23～29日、東海近畿エリアで6月28日に実施し、3エリア合計約60店舗で展開しました。売り場では、ニッポンエール・フルーチェと農協牛乳を併売し、POPや販促資材を活用しながら、商品の組み合わせによる喫食機会の拡大を訴求しました。

売り上げ2倍の店舗も

実施店舗の中には実施週の



新たな地域品目づくり
ぶどう山椒の産地化へ

長崎県対馬市を拠点に活動するJA対馬は現在、中央会や全農の協力のもと、地域の新たな特産品として「ぶどう山椒」の産地化に向けた取り組みを進めています。

軽くて高単価で取引
高齢者も取り組みやすく

きつかけは、離島という地



産地化へ期待がかかる「ぶどう山椒」

「ぶどう山椒」は、清涼感のあるピリツとした刺激が特徴のスパイスです。実はもちろん新葉も含めてそれぞれ利用価値が豊富で、乾燥させて出荷できるほか、高級食材としての需要も見込まれています。

理的条件が生む輸送コストの課題でした。これらを克服するため、出荷の際に「軽量」かつ「高単価」で取引される品目として山椒に着目しました。山椒は栽培管理が比較的に優しいため高齢者でも取り組みやすく、労力が収穫期に集中することから、地域の労働力を有効に生かせる「新たな地域おこし品目」として期待を集めています。

今後は、販売に向けた出荷規格や形態、調製方法の協議や、対馬島内でも山椒が身近に感じてもらえるよう、直売所等でもPR活動を進めるとともに、販売先への流通対策を強化します。さらに、将来的には生産部会の発足も視野に入れ、中央会・全農と連携した研修会等を開催し、持続可能な離島農業のモデルケース確立を目指します。

生産者、本数ともに増
販売へ規格、形態を協議

産地づくりは着実にステップアップしています。2023年に1人から始まった100本の試験栽培を皮切りに、24年には8人で600本、25年には10人で1040本と着実に規模を拡大。4年目となる26年に出荷計画を関係機関と協議していく予定です。

概要	2026年3月31日 現在
正組員数	1343人
准組員数	1812人
職員数	61人
販売品取扱高	3億5千万円
購買品取扱高	3億3千万円
貯金残高	144億4千万円
長期共済保有高	1056億3千万円
主な農畜産物	対州そば、原木椎茸、あか牛、ミニトマト

ぶどう山椒導入のメリット

① 軽く、栽培しやすい

高齢者でも取り組みやすい
高単価、輸送コストも安く



② 多様な用途

実や新葉も含め豊富な
利用価値
高級食材としての
需要も



③ 新たな特産へ

生産者も増加

栽培本数
100本 ▶▶▶ 1040本

販売に向け規格の協議や
流通対策強化へ

無印良品で「ほめられかぼちゃ」を使用した菓子発売

全農、良品計画、MVM商事が商品開発、国産化推進

全農は、(株)良品計画と連携して、エム・ヴィ・エム商事(株)(以下、MVM商事)とともにバリューチェーン構築に取り組む「ほめられかぼちゃ」を使用した菓子7種を8月5日から順次発売し、発売イベントで「ほめられかぼちゃ」の魅力を発信していきます。

【営業開発部】

営業開発部は輸入青果物の国産化の取り組みとして、国産の拡大余地がある6、7月出荷の「ほめられかぼちゃ」の生産振興を、業務提携先であるMVM商事と連携して取り組んでいます。

この取り組みは市場向け出荷と比べ、「安定収入」「労力削減」経費削減」と生産者に多くのメリットがあり、取組開始8年目となる2026年産は1300トの出荷を計画するなど、順調に拡大しています。

甘味強くほくほくした食感

「ほめられかぼちゃ」はMVM商事のオリジナルブランドで、糖度・

水分値を一定基準で厳選した食味に優れた高品質かぼちゃです。通常のかぼちゃと比べて甘みが強く、ほくほくとした食感が特徴です。一般的にかぼちゃは熟度の判別が難しく、安定した品質の確保が課題ですが、独自の光センサー選別技術を用いて

品質の高位平準化を実現し、おいしさを約束できる原料だけを「ほめられかぼちゃ」として販売しています。

同社は24年に北海道旭川市に冷凍かぼちゃ工場を設置し、コンシューマ向け「ブロックカット」の他、業務向け「ダイスカット」「ペースト」の生産を開始しました。これにより、食味基準はクリアしているものの、外観の傷等により規格外とされている



ほめられかぼちゃの収穫



収穫されたほめられかぼちゃ



良品計画開発チームと生産者



ほめられかぼちゃの生産者

素材の味を生かした10種類

たかぼちやを原料として活用できる体制が整いました。現在、営業開発部では、コンビニエンスストアや外食を中心に共同営業を展開しています。

今回は、良品計画と連携し「ほめられかぼちや」を原料テーマとし、人気商品であるバウム・ケーキや焼菓子等で「ほめられかぼちや」の名称を冠した商品をシリーズ展開することとなりました。産地訪問や試作を重ねながら、良品計画の商品開発

力により原料のポテンシャルを最大限に引き出した計10種の商品を開発・販売します。

これらの商品は、8月5日から全国の店舗とネットストアで順次発売となりますが、新発売に先行し8月1日札幌バルコ店、8月2日旭川花咲店で発売イベントを開催しました。商品の試食をはじめ、ほめられかぼちやを使ったフォトスポットや全農、良品計画、MVM商事の関係者によるトークショーなど、新商品とともに「ほめられかぼちや」についてもお客様に広く知っていただきました。

今後、8月9日銀座店、8月22日グランフロント大阪店でも同イベントを予定しており、この2会場では店舗併設された「Café & Meal MUJI」や「MUJI Coffee & Bakery」で「ほめられかぼちや」を使った限定メニューが発売されます。これらの活動を通じ、「ほめられかぼちや」の認知度向上と消費拡大に努め、食農バリューチェーンの強化・拡大につなげていきます。

営業開発部はこれからもパートナー企業と連携した商品開発を通じ、国産農畜産物の持続的な生産、シェア拡大に取り組んでいきます。

加工品の数々

一部商品：8月5日発売予定



ほめられかぼちやチップ



ほめられかぼちやのクッキー



ほめられかぼちやのしっとりガレット



商品開発に携わったメンバーによる産地視察

物流の見える化、
効率的な荷受体制へ

クラウド物流管理 ソリューションを導入

JA全農青果センター(株)は、物流効率化に関する法律によ
って企業に課された義務措置規定等への対応として、6月1日
から物流管理システム「MOVO-Berth」を導入しました。

【JA全農青果センター(株)】

このシステムは、納品車両の予約制の導入、車両積載情
報の可視化、効率的な荷受体制の実現を目的としています。
青果センターの各拠点では、納品車両が集中して入庫した
際の、荷下しまでの待ち
時間や入庫から離床まで
がドライバーの大きな課
題となっていました。

2025年4月には改正物
流二法が施行され、荷
主・荷受事業者には待ち
時間や荷役時間の短縮
等の努力義務が課され
ており、今回のシステム導
入により改善に努めてい
きます。

「MOVO-Berth」を
紹介する看板



思わずにっこり
優しい甘さの
清涼飲料水

伊藤園× ニッポンエール 「栃木県産にっこり梨」 を新発売

全農と(株)伊藤園は「ニッポンエール 栃木県産にっこり梨」
を共同開発し、伊藤園より全国の量販店で7月20日から発売
しています。 【営業開発部】

「にっこり梨」は、「新高」と「豊水」をかけあわせた栃木県
のオリジナル品種です。大ぶりのフォルムが特徴で、果肉は
糖度が高く、ジューシーな味わいが楽しめます。

本商品は2023年8月から毎年発売し、今年で4年目の販売
となります。栃木県産にっこり梨の果汁を使用し、じゅわっと
広がる優しい甘さと上品な香りが特長で、思わずにっこりし
てしまうおいしさの清涼飲料水です(果汁1%)。本商品を全国
にお届けすることで、生果の認知拡大を図るとともに、にっこり
梨農家の皆さまを応援します。



4,800円
(税込み)

JA鶴岡 殿様のだだちゃ豆(約1.5kg)



JA全農の産地直送
通販サイト

JAタウン
ショップ紹介

だだちゃ豆は、山形県鶴岡市周辺の限られた地域で、江
戸時代から農家が大切に守り育ててきた在来種の枝
豆です。他にはない濃厚な甘みと豊かな香りが特
徴で、多くの人に愛され続けています。鶴岡の
四季がはっきりした気候、排水性の良い砂質土
壤、昼夜の大きな寒暖差が、だだちゃ豆ならで
はのおいしさを育みます。他の地域では本来の
風味が十分に発揮できないため、生産地と生産
者を限定して栽培されている希少な品種です。
鮮度が命のため夜明け前から収穫し、素早く選別・
冷蔵管理を実施。短い旬の時期にしか味わえない、
鶴岡自慢の夏の味覚をぜひご賞味ください。

(JAタウンはこちら) <https://www.ja-town.com>
(お問い合わせは) shop@ja-town1.com

ご注文は
こちらから



『JA全農トピックス』の公式
Xはこちら



私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。